平鹿総合病院　広報誌

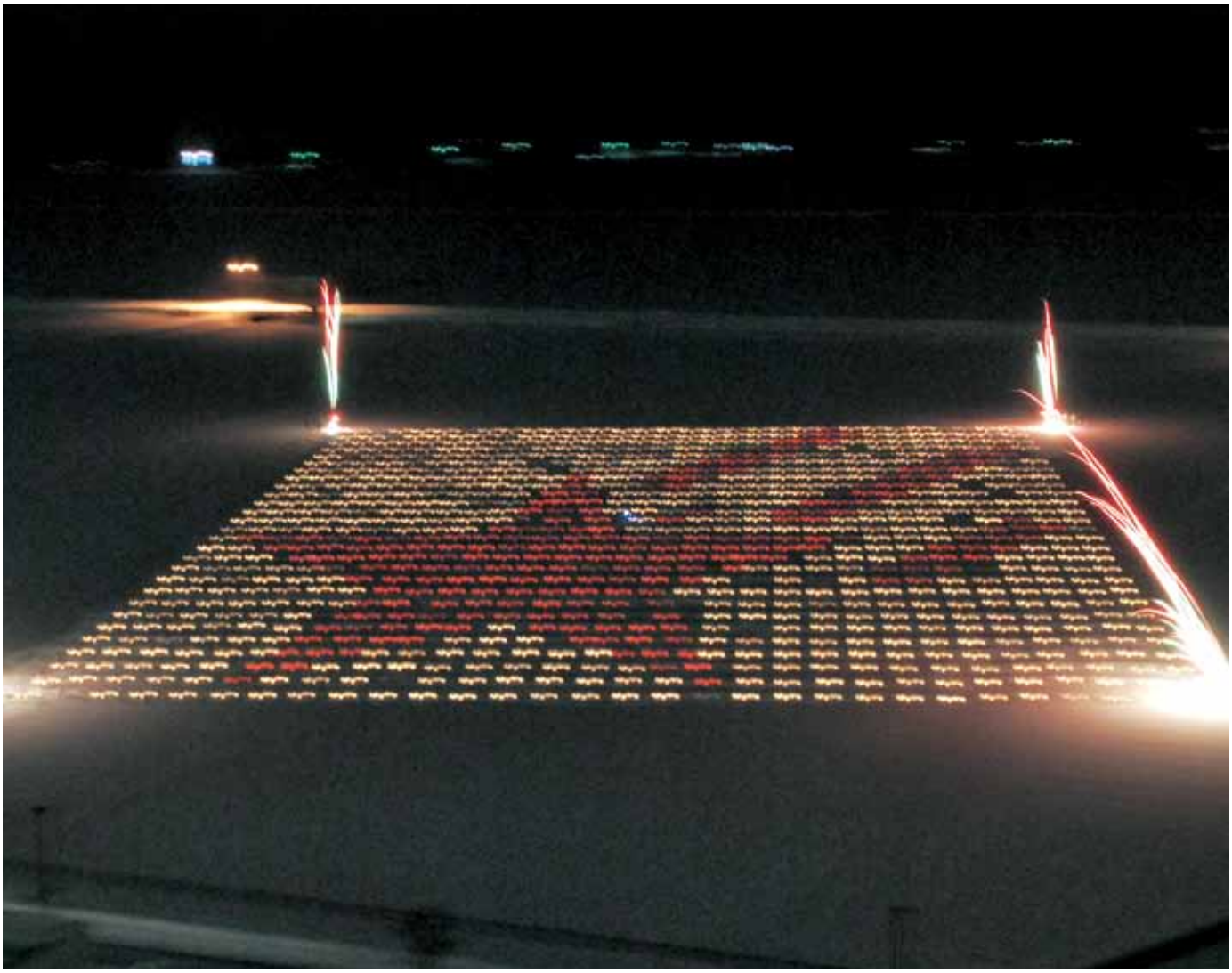
みのり

Vol.12

2013年6月発行

平鹿総合病院の理念

「より高度な臨床」
「より深い研究」
「より広い教育」
「より積極的な保健活動」
の四つの柱を職員が共有し、
地域の人々の生命と健康を守ります。



ミニかまくら点灯（２月10日・11日午後５時）、病院西側の田園に広さ約１haに設置されました。
　ミニかまくらボランティア会（半田工務店・ミノル工業・最上田組・泉谷土木・横手クリーンセンター）のご協力により、今年も素晴らしい情景を楽しめました。

CONTENTS

●院長あいさつ…… ❷
●職場紹介（感染対策室）…… ❸
●新任医師の紹介…… ❸
●外来受付時間のご案内…… ❹
●風疹にご注意を！…… ❹

当院は、日本医療機能評価機構Ver5.0の認定施設です。また、当院の健診センターは、日本人間ドック学会の機能評価認定施設です。

病院住所／〒013-8610 横手市前郷字八ツ口3番1
TEL／0182-32-5121（代）　FAX／0182-33-3200
●HP：http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/

院長　平山　克

平鹿総合病院の職員は誰でもどこでも「心肺蘇生」を行えます
平鹿総合病院全職員を対象とする「心肺蘇生講習」の継続

皆さんは、心肺蘇生講習を受けた経験がありますでしょうか？

また、AED という医療器具について、耳にしたり直接触れたりしたことはありますでしょうか？

今回は、当院が独自で行っている**「全ての平鹿総合病院職員を対象とする心肺蘇生講習会」**について紹介したいと思います。

日本では、病院の外での心肺停止（つまり、自らも家族も周りの人も想定していない突然の心肺停止です）が 1 年間で 123,095 人（平成 22 年度）発生しています。しかも、この数字は毎年増加の一途です。心肺停止の原因で最も多いのが“心臓が原因”のケースであり、68,293 人（55%）です。この数字は、同年の交通事故による死亡者数 4,863 人と比較すると、いかに多い数字であるかがおわかりでしょう。日本では、10 分に 1 人の割合で家庭や職場、街中で発生していることになります。突然の心臓発作による心肺停止の直接原因として圧倒的に多いのが“心室細動”であり 65% ～ 85% を占めます。心室細動は放置すると確実に心停止から死亡に至りますので、発生後速やかに治療を行う必要が有ります。そして、その唯一の治療方法が AED なのです。AED は、コンピューターを内臓した医療器具であり、心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す機能を持っています。但し、AED が有効に機能して倒れた人の命が助かるためには、倒れた瞬間から可能な限り早急に、出来れば数分以内に、使用する必要があります。救急隊員は勿論 AED を携帯していますが、119 番通報から救急車の現場到着までの所要時間は日本全国の平均で 7.9 分を要します。従って、倒れた現場に居合わせた人（バイスタンダーと呼びます）が AED の使用を含めた救急蘇生を行えるか否かが倒れた人の文字通り命運を握る場合が圧倒的に多いことになります。

平成 16 年に関連法律が改正されて、一般市民の AED 使用が許可されました。また、当院ではその平成 16 年に AED を院内に新規に導入しました。この導入を契機として、病院の全職員（その当時で 710 名、現在は 906 名です）が AED の使用方法を含めた基本的心肺蘇生法を習得するというプログラムを立ち上げて、現在まで継続しています。プログラムの名称は、**「平鹿総合病院のスタッフなら、誰でも何処でも BLS/AED」**です。秋田魁新報も取り上げて記事にしてくれました。開始当初は医療安全管理委員会が主体となって行いましたが、平成 19 年に現在地に引っ越してからは循環器内科の深堀耕平先生を中心とする有志のメンバーに担当してもらっています。表は、毎年の講習受講職員数を紹介したものです。最初の 2 年間で全職員の講習を完了して、以後は新たに入職したスタッフを対象として網羅的に受講してもらっています。

ところで、この文章を書いていた 2 月 24 日の産経新聞 Web 版に、まさにこのテーマに関する記事が載っていました。東京マラソンに参加中のランナーが急に倒れて心肺停止となり、近くにいたランナー達が AED を自発的に使用して救命し、そのまま走り去ったというものです。素敵な記事ですが、私は特に以下の 4 つの点が印象に残りました。

1) AEDの社会における普及が定着していることの証左である
2) 心肺蘇生の心得とスキルが一般市民に定着している証左である
3) とっさで危急の場合において自ら救命処置を率先して行うという心得と勇気を市民が持っている
4) 名乗り出ずに去っていくという日本人の奥ゆかしさと美意識は廃れていない

今年度からは、これまでボランティア的に頑張ってもらってきた深堀先生達の負担を軽減する必要が生じた為に、開始当初の運営に立ち返って、医療安全管理委員会が主体となり施行することになっています。

こうした活動というものは、外からはなかなか見えてこない事柄でありますけれども、当院では、病院としての最大のミッションである地域市民の皆さんの健康と生命を守るという使命の遂行とその質の向上を目指して、このような内部活動も行っていることを理解して頂ければ嬉しいと思って紹介致しました。

年次別にみた受講者数

平成16年度	68名
平成17年度	661名
平成18年度	91名
平成19年度	94名
平成20年度	116名
平成21年度	83名
平成22年度	59名
平成23年度	63名
平成24年度	76名

講師を務める深堀医師

モデルを使った実技訓練

お手柄ランナー名乗り出て　マラソンで人命救助

産経新聞Web版　平成25年 2月24日(原文のまま)

- 2月24日の東京マラソンで午前11時50分ごろ、中央区の交差点で突然、男性ランナー(30)が意識を失って倒れた。男性は心肺停止状態で、近くにいたランナーたちの蘇生措置により一命を取り留めた。救助した人たちはそのまま走り去り、東京消防庁は「ぜひ名乗り出て」と呼び掛けている。
- 日本橋消防署によると、中央区日本橋人形町1丁目の水天宮前の交差点で走っていた男性が倒れた。異変に気付いた女性ランナーが119番、別の男性ランナー2人が心臓マッサージをしたり、沿道の男性が交番から持ってきた自動体外式除細動器(AED)で蘇生措置をしたりした。
- 倒れた男性はすぐに意識を取り戻し、病院に運ばれた。快方に向かっているという。
- 救助に当たった3人と沿道の男性は名乗らないまま立ち去り、日本橋消防署は「命を救えたのはこの方々のおかげ。感謝状を贈呈したい」としている。

平鹿総合病院

【職場紹介】感染対策室

感染管理認定看護師
髙橋　由美子

病院は患者さんやご家族だけではなく、病院職員や外部業者、病院実習生など多くの人々が出入りしています。このような環境では感染症が入り込みやすく、特にインフルエンザや結核、感染性胃腸炎といった感染症の集団発生が問題となってきます。このような事態を防止するため、感染対策室は病院内のみに係らず医療に関連した感染症を制御していくという役割を担っています。私たちの病院における感染対策の目標は、「感染症から患者さんを守る、医療従事者は自分も守る」ということを目指して実践しています。

ここでは、感染対策室とその活動についてご紹介します。

感染対策室員は、医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、環境整備担当事務員の他職種からなる５名が所属しています。また感染対策活動は多岐に渡るため、感染対策室員のほかに栄養士や医療材料供給担当、ICU 担当などの専門部門のスタッフを加えた感染対策チーム（ICT：Infection Control Them）を編成し一緒に活動しています。

主な活動は次の通りです。

1　病院に関連した感染症に関する問題点の把握と改善、再評価の実施
2　最新の情報を取り入れた感染防止策や感染防止技術の教育（院内研修会の開催）
3　感染症治療や対策に対する助言や指導（抗菌薬適正使用等の ICT ラウンドの実施）
4　医療施設における療養環境の整備
5　感染予防を目的とした職員の健康管理
6　感染症治療や感染防止対策に関連したコンサルテーション（相談、助言）

このような院内活動のほか、地域連携病院と相互ラウンドを実施し、意見交換をしながらそれぞれが自施設の対策の見直しに繋がるよう努力をしています。

平成 25 年 3 月より感染管理認定看護師が専従として感染対策室へ配属となり、本格的な活動が開始となりました。これからは病院の安全対策の１つとしてあらゆる部門と連携しながら活動していきたいと思っています。

新任医師の紹介

（平成25年４月１日赴任）

循環器内科　診療部長
堀口（ほりぐち）　聡（さとし）

泌尿器科　科長
伊藤（いとう）　卓雄（たくお）

小児科　科長
小山田（おやまだ）　遵（じゅん）

耳鼻咽喉科　医長
齊藤（さいとう）　隆史（たかし）

呼吸器内科　医長
松村（まつむら）　聡志（そうし）

整形外科　医長
秋（あき）　貴史（たかし）

小児科　常勤嘱託
秋（あき）　はるか

形成外科　医員
村木（むらき）　健二（けんじ）

産婦人科　医員
菅原（すがわら）　和江（かずえ）

診察受付時間のご案内

［平成 25 年６月１日現在］

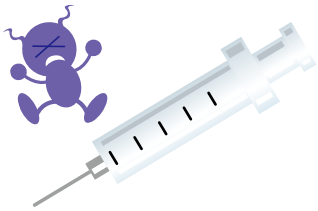
※自動再来受付機は午前６時30分から受付開始します。　※新患受付は午前８時から受付開始します。

ブロック	診療科	受付曜日	受付時間	備考
1階 Aブロック	消化器・糖尿病内科	月～金	午前11時まで	◎糖尿病外来（火･木･金曜日）◎肝臓外来（毎週火曜日） ◎炎症性腸疾患外来（水･金曜日）
	外科	月～金	午前11時まで	◎小児外科（毎週木曜日午前）　※要予約 ◎ストーマ外来　※完全予約制
	乳腺外科	月～金	午前11時まで	※緊急の場合を除き、医師の診察は完全予約制です。
	整形外科	月～水･金	午前11時まで	
		木	午前10時まで	
	心療センター	火・水・金	午前11時まで	※新患の方はあらかじめ水曜日又は金曜日に予約をお願いします。 （お電話でも結構です。）
1階 Bブロック	呼吸器内科	月～金	午前11時まで	◎在宅酸素外来（毎週火曜日13:30～14:30） ◎ＣＰＡＰ外来（毎週木曜日13:00～14:30）※完全予約制 ◎禁煙外来（第2･第4木曜日16:00～17:00）※正面受付で予約
	循環器内科	月～金	午前11時まで	◎ペースメーカークリニック外来（毎週水曜日14:00～15:00） ※要予約
	血液内科	月～金	午前11時まで	◎腎臓外来　月曜日（隔週）水曜日（毎週）※完全予約制
	神経内科	火	午前11時まで	
		水	午後13～15時	
	脳神経外科	月～金	午前11時まで（木・金）予約制	
	心臓血管外科	木･金	午前11時まで	
2階 Cブロック	皮膚科	月･水	午前10時まで	◎心臓外来（第1･第3･第5金曜日）※完全予約制 ◎神経外来（第4水曜日）※完全予約制 ◎内分泌外来（第2･第4金曜日）※完全予約制 ◎腎臓外来（第1金曜日）※完全予約制 ◎血液外来（第4金曜日）※完全予約制 ※特殊外来受診希望の場合は必ず小児科外来にご連絡ください。
	小児科	月～金	午前11時まで	
		◎予防接種（毎週火・水曜日13:00～15:00） ※ただし、第4水曜日は行っておりません。 ◎慢性疾患（毎週火曜日13:00～15:00） ◎乳児検診（毎週木曜日13:00～15:00）		
	産婦人科	月･火･木･金	午前11時まで	◎母乳外来（毎週月･木曜日14:00～16:00）※要予約 ◎母親学級（毎週火曜日14:00～15:30）※要予約 ◎不妊外来（第2･4木曜日14:00～16:00）
		水	午前10時まで	
	形成外科	月・火・木	午後の15時まで（診療は午後の13時30分から）	◎顎顔面･唇顎口蓋裂外来（第1金曜日） ※金曜日午前診察です。金曜日以外の診療は午後の13時30分からです。
		水	予約制	
		金	午前10時まで（午前に診療します）	
2階 Dブロック	耳鼻咽喉科	月･水･木	午前11時まで	◎学童外来(毎週木曜日､受付は午後 15 時まで)診療は午後 15 時からです。 ※火･金曜日の診療は午後の13時30分からです。
		火･金	午後12時～14時30分	
	眼科	月	午前は9時30分まで･午後は12時～14時30分	※月曜日の午後の診察は14時からです。 ◎手術日（毎週水曜日）
		火･水	予約のみ	
		木･金	午前9時30分まで	
	泌尿器科	月～金	午前11時まで	◎ストーマ外来（毎週火･木曜日10:00～11:30）※完全予約
	歯科	月～金	午前11時まで	

風疹にご注意を！

昨年末から今年にかけて首都圏を中心に『風疹』が大流行しています。風疹は子供の病気と思われがちですが、今季は、免疫を持っていない20～40代の成人男性を中心に増加しています。特に妊娠初期の女性が罹患すると胎児に風疹ウイルスが感染してしまい、『先天性風疹症候群』を起こす恐れがあります。

『先天性風疹症候群』とは、早産のほか、高度の難聴、心疾患、白内障、緑内障、心身の発育遅れなどの複数の生まれつきの障害を起こすことをいいます。これを防ぐには、出産を希望される方はご夫婦で抗体価検査を受けて、免疫がない場合には風疹ワクチンの予防接種を各医療機関で任意接種することをお勧めします。

●風疹……咳やくしゃみからの飛沫感染。潜伏期間は2～3週間で、感染力は発疹2日前～発疹後5日程度。
症状は、発熱、発疹、咳、リンパ節の腫れ、成人では関節痛など。
まれに脳炎を起こすことも。

●ワクチン……子供⇒定期接種MRワクチン2回接種（麻疹、風疹混合ワクチン）
1期：1歳、2期：就学前1年間　※2回未接種の子供は任意接種を。